

IV-487

地形形状からみた神社の立地特性

— 多治見市における事例分析 —

大同工業大学 学生員 田中 洋

大同工業大学 正 員 舟渡悦夫

1. 本研究の背景・目的・方法

（１）本研究の背景：神社・仏閣などが有する宗教施設、境内地には、歴史的な遺産としての価値が高いものが多くみられる。特に神社境内地は宗教法人により管理がなされているが、その維持管理能力が衰えた中小の神社においては、境内地が開発のために切り売りされたり、放置されているケースがみられる。

（２）研究の目的：本研究は、神社境内地が準公共空間であると想定し、将来活用化するための基礎調査として、神社の立地に関して、その地形など自然特性からの検討を行ったものである。本研究の対象地域は、典型的な盆地地形を有する岐阜県多治見市である。

（３）研究の方法：地形図(1/2500)による地形形状の判読、都市計画関連図などの資料調査を行い、表-1に示す神社の立地に関する環境調査を平成6年1月上旬に行った。なお、分析対象とした神社は32社に限った。

2. 分析の結果

（１）神社の立地類型による特徴：まず、神社の立地を、地形の断面形状から5つに類型化することにした。図-1はその類型と位置分布を示したものである。類型別の構成を見ると、山腹型が46.9%と最も多く、次いで山裾型が21.9%、平地型、台地型が共に12.5%、山頂型が6.3%となっている。

（２）神社の社殿と鳥居の方位性の検討：神社にとって、社殿と鳥居は神社の証であり、このような施設を造営する際、古来から風水説など何らかの方法により、土地の選定がなされたと思われる。

表-1 神社の立地に関する環境調査項目

項目分類	調査項目
土地条件	森林機能区分
	急傾斜地
	避難場所
土地利用	農業用地区分
	都市計画区分
	神社周辺の土地利用
交通	最寄りの国道・県道・主要市道
	最寄りのバス停
	神社前道路
河川	最寄りの河川
施設	近隣寺院
	近隣神社
	その他の近隣宗教施設
	近隣墓地
	幼稚園・保育園・児童館
	中学校・通学区域
	小学校・通学区域
	近隣集会施設
	近隣ゲートボール場
神社内状況	鳥居までの状況 (鳥居がない場合は境内入り口)
	鳥居の有無
	鳥居までの距離
	道路から鳥居までの歩行時間
	社殿までの状況
	鳥居が向いている方位
	鳥居から社殿までの高度角
	鳥居から社殿までの距離
	鳥居から社殿までの歩行時間
	社殿までの階段数
	階段の形状
	社殿が向いている方位

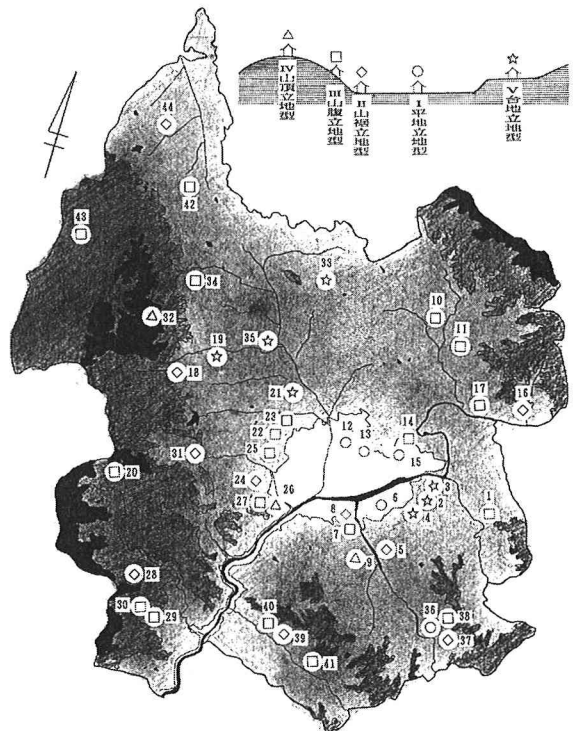


図-1 立地類型別にみた神社の位置分布

注：分析から除いた神社 No.(2, 8, 9, 13, 14, 19, 22, 27, 30, 31, 33, 37)

- ①社殿の方位：図-2に示すように、社殿の正面が向く方位は東から西まで多様に変化しており、一般には神社は南面するという説が必ずしも当たらないことが分かる。
- ②社殿と鳥居の方位の関連性：図-3に示すように両者の方位は、ほぼ一致している。一部の神社に不一致のものがあるが、これは稲荷神社であるとか、地形的事情、移設などの理由による特殊なケースといえる。
- ③社殿と河川との関連性：社殿の方位にほぼ直交する形態で前面の河川に面するケースが70%あることが確かめられた。特に山裾型では71% (5/7)、山腹型では80% (12/15) とその傾向が強く表れ、他の類型は何れも50%の神社において、そのような形態であることが分かった。すなわち、神社は川を前面に面するように適地を探索した形跡がうかがえる。
- ④社殿の方位と山の斜面の向きとの関連性：立地類型のうち約7割を占める山裾型(7)と山腹型(15)について、社殿の方向とその背景となる山の向きの関連について検討してみた。山裾型では、その方向が完全に一致する割合は57% (4/7)、ほぼ一致の割合が29% (1/7) であり、残る一社は移設されたもので一致していない。山腹型についてみると、完全に一致している割合が73% (11/15)、ほぼ一致が1社、残り3社が不一致で神社は山の北斜面に立地するという特異なケースとなっている。以上から、ほぼ一致するものも含めると、86% (19/22)の神社において、社殿の方位と立地する山の斜面の方向が一致することがわかった。また、社殿の方位が川にほぼ直面し、山の傾斜方向がほぼ同一の神社は68% (15/22)となっている。
- (3) 神社境内地の社殿までの到着時間：神社の境内地の地形を正確に計測することは重要であるが、多大の時間と労力が必要とされる、そこで、境内地から社殿までの徒歩による所要時間と、歩数による到達距離を測って、神社の境内地の大きさを類推することとした。図-4は、山頂型の1社が示されていないが、その結果を示したものであり、平均で71m、71秒（山頂型2社を除く）であった。

3. まとめ

本研究が対象とした多治見市における神社の立地を地形形状でみた場合、類型としては山裾立地型、山腹立地型が多く、河川の流れの方向、立地する山の斜面を考慮して、理想の地形を探索した形跡がうかがえた。しかしながら、この特性が普遍的な結果とみなすためには、今後サンプルを増やし検討を進める必要がある。

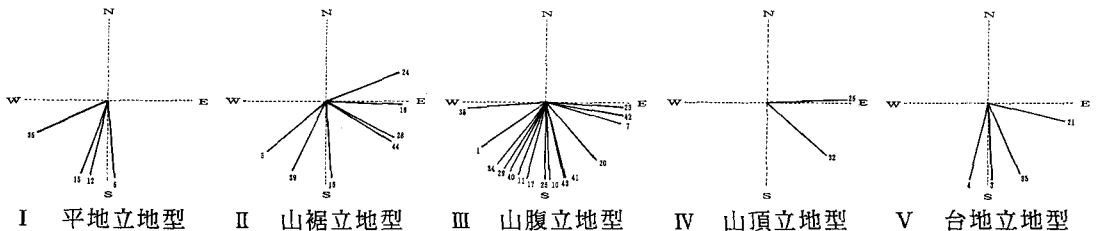


図-2 立地類型別にみた神社社殿が面する方位

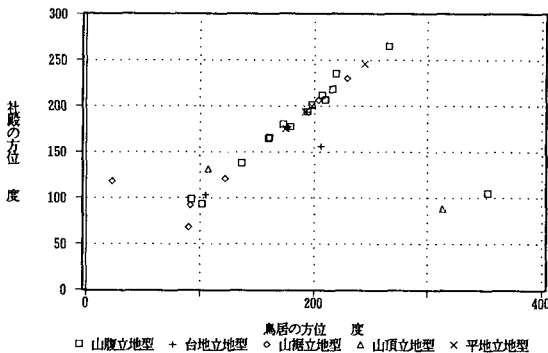


図-3 鳥居の方位と社殿の方位の関係

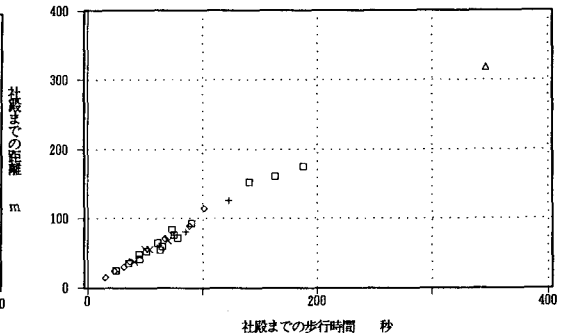


図-4 社殿までの歩行時間と歩行距離の関係